

ハモコミ通信は①②と毎月2回、メール配信させていただいております。①のほうはホームページでも公開しておりますとおり、A4版1枚のペーパー版も作っています。何かを郵送するついでに同封するようにしています。

HP上のバックナンバーも、このペーパー版のみ都度公開しており、②のほうは1年分まとめたの公開とさせていただいております。

遅くなりましたが、2021年②特集、どうぞお楽しみくださいませ。

ハモコミ通信 2021年1月号②

<まちネタその1>

◎ 心の向け方

Yさんは折に触れて、高校時代の先輩のF氏に色々なことを相談しています。

F氏はそのつど、物事の受け止め方や気持ちの換え方などを示してくれました。

豊富な人生経験から紡ぎ出されるF氏の考え方や言葉には、いつもハッとさせられ、目が覚める思いでした。

また、心の向きが今までとは異なる方向へ向かうのを感じています。

ある日Yさんは、今の仕事が自分のやりたい仕事ではないこと、人生がなかなか思い通りにいかないことを相談しました。

F氏は、「物事がうまく運び、人生が思い通りになったから感謝するというのは一般的な考え方だろう。そうではなく、むしろ物事が思い通りにならなかったことにも感謝できる人間を目指したらどうだろう。そこにこそ自己向上のカギがあるのではないか」とアドバイスしたのです。

Yさんはその日、物事に対する考え方と共に、何事もありのままに受け止めて、自身の糧(かて)にしていくことの大切さを学んだのでした。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

<コメント>

YさんとF氏、それぞれ何歳くらいかな？と

想像しながら読みました。

まあ、そんなことはどうでもいいのですが(笑)、F氏のアドバイスは質が高いですね。

何か物事がうまくいかない、というとき、多くはその原因に目を向けがちではないかと思えます。

しかしF氏は、「受け止め方」のほうに着目せよ、というわけですね。しかも結果に依らず感謝せよ、と。

感謝せよ、ということは全肯定的受け止め方、「難有り、有難し」ということになりますかね。

Yさんが「心の向きが今までとは異なる方向へ向かう」とおっしゃっている意味がよくわかります。

10年以上前に読んだ小冊子「ツキを呼ぶ魔法の言葉」の中で、著者五日市剛氏がイスラエルのお婆さんから言われたのが、まさにソレだったのを思い出しました。

うまくいかない時には「感謝します」と口に出しなさい、と。

少し奇妙に思いながらもこの言葉を実践してみた五日市氏。

不思議に良いことが次々起きた、とおっしゃっています。

「人間万事塞翁が馬」の故事にもあるように、その時は悪いことのように思えても、ふり返ってみるとあの時、ああいうことがあったからこそ今がある、という経験は誰しもあるのではないのでしょうか。

だとすれば、短期的な結果に右往左往することなく、何が起きても「有難う」という全肯定+全感謝の姿勢で受け止めて、荒波を楽しんで乗り切っていきたいものですね。

結果の方から変わってきてくれそうです。

<まちネタその2>

◎ 休眠打破

若手のKさんは、仕事に行き詰まり悩んでいた時、上司から「休眠打破」という話を聞きました。

「桜はその年の夏に翌年の春に咲く花芽を出す。

秋から冬にかけて休眠に入った花芽は、冬の間到低温に晒(さら)されて休眠から目覚め、気温の上昇と共に生長して花になる。

冬が暖かすぎると、開花が遅れることもある。

冬の寒さが厳しいほど、桜は開花の準備を始めるのだよ」

と言われました。

上司は仕事に対する直接的なアドバイスではなく、「休眠打破」という自然の摂理から間接的に仕事との向き合い方を説いたのです。

Kさんはその話を聞き、「冬の寒さには桜を生長させる役割があるのか。人もまた厳しい環境を乗り越えてこそ成長するのだ。進んで困難なことにチャレンジしていこう」と、仕事への考え方を改めました。

「自然は真理の百科辞典」といわれます。

春夏秋冬という季節の移ろいを味わいながら、人としての生き方も学びたいものです。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

<コメント>

例え話などで間接的に諭す、というのは高等戦術ですね。

「自然は真理の百科辞典」というのは確かにそのとおりだなあ、と思いますが、それを自在に引き出して、場に応じて活用できるようになるには、相当の引き出しの豊富さ、感性の豊かさが求められそうです。

ぜひそのような人になりたいものだなあ、と思いました。

<まちネタその3>

◎ いつでも心晴れやかに

過去に、注意や叱責を受けたことは、誰にでも少なからずあるでしょう。

怒られた直後、私たちは、どのような行動を取っているのでしょうか。怒りや悲しみを抱いたり、不安に駆られて行動が停滞する場合があるかもしれません。

逆にやる気に燃えて、すぐ、改善に向けての歩を進める人もいます。

イベント会社で裏方を任されているEさんは、上司から注意を受けても「すみません」の一言が言えずにいました。

〈自分に不備があった〉と頭では理解していても、一から積み上げてきた自負心から、反発を抑えきれずにいたのです。

ある日上司が、誰も気に留めるほどではない、

些細（ささい）なミスを起こしました。

その瞬間、皆に対して「申し訳ない」と頭を下げたのです。

それを目にしたEさんは、自身の普段の姿と照らし合わせ、居たたまれない気持ちになりました。

心と行動の舵取りは自身の裁量です。

悪いと感じた時には即座に「すみません」と反省して心の曇りを晴らしましょう。

謝罪した後は、軽やかに行動して、さらにパワーアップして働きたいものです。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

<コメント>

今回の3つのコラムに共通しているのは、YさんKさんEさん、それぞれ受け止め方が素直だなあ、という点です。

Eさんの場合は、その素直さを出せずに、実は心の中にスッキリしないものが溜まりに溜まっていたのですね。

だからこそ、「居たたまれない気持ち」にまだまったということだと思います。

居たたまれない、というのは相当強い気持ちです。

だからこそ、ハッとした後の行動変容は、確かなものになるだろう、と想像します。

誰でも心の中に、Eさんのように素直に出せないものを抱えているのではないのでしょうか。

何かのきっかけでそこに気づくことができれば、それは大きな大きな幸せの糸口になりそうですね。

~~~~~

< 編集後記 >

今年はシャキッと身が引き締まる寒い日が多いですね。

2番目のコラムのとおりだとすると、今年の桜は期待できそうです。楽しみです。

## ハモコミ通信2021年2月号②

<まちネタその1>

## ◎「命のバトンタッチ」鎌田實氏(諏訪中央病院 名誉院長)

僕が看取った患者さんに、スキルス胃がんに罹(かか)った余命三か月の女性の方がいました。ある日、病室のベランダでお茶を飲みながら話していると、彼女がこう言ったんです。

「先生、助からないのはもう分かっています。だけど、少しでも長生きをさせてください」

彼女はその時、42歳ですからね。そりゃそうだろうなと思いつつも返事に困って、黙ってお茶を飲んでた。

すると彼女が、「子供がいる。子供の卒業式まで生きたい。卒業式を母親として見てあげたい」と言うんです。

9月のことでした。彼女はあと3か月、12月くらいまでしか生きられない。でも私は春まで生きて子供の卒業式を見てあげたい、と。子供のためにという思いが何かを変えたんだと思います。

奇跡は起きました。春まで生きて、卒業式に出席できた。

こうしたことは科学的にも立証されていて、例えば希望を持って生きている人のほうが、がんと闘ってくれるナチュラルキラー細胞が活性化するという研究も発表されています。

おそらく彼女の場合も、希望が、体の中にある見えない3つのシステム、内分泌、自律神経、免疫を活性化させたのではないかと思います。

さらに不思議なことが起きました。彼女には二人のお子さんがいます。上の子が高校3年で、下の子が高校2年。せめて上の子の卒業式までは生かしてあげたいと僕たちは思っていました。でも彼女は、余命3か月と言われてから、1年8か月も生きて、二人のお子さんの卒業式を見てあげることができたんです。

そして、1か月ほどして亡くなりました。

彼女が亡くなった後、娘さんが僕のところへやってきてびっくりするような話をしてくれたんです。

僕たち医師は、子供のために生きたいと言っている彼女の気持ちを大事にしようと思い、彼女の体調が少しよくなると外出許可を出していました。

「母は家に帰ってくる度に、私たちにお弁当を作ってくれました」と娘さんは言いました。

彼女が最後の最後に家へ帰った時、もうその時は立つこともできない状態です。病院の皆が引き留めたんだけど、どうしても行きたいと。

そこで僕は、「じゃあ家に布団を敷いて、家の空気だけ吸ったら戻っていらっしやい」と言って送り出しました。

ところがその日、彼女は家で台所に立ちました。立てるはずのない者が最後の力を振り絞ってお弁当を作るんですよ。その時のことを娘さんはこのように話してくれました。

「お母さんが最後に作ってくれたお弁当はおむすびでした。そのおむすびを持って、学校に行きました。久しぶりのお弁当が嬉しくて、嬉しくて。

昼の時間になって、お弁当を広げて食べようと思ったら、切なくて、切なくて、なかなか手に取ることができませんでした」

お母さんの人生は40年ちょっと、とても短い命でした。

でも、命は長さじゃないんですね。お母さんはお母さんなりに精いっぱい、必死に生きて、大切なことを子どもたちにちゃんとバトンタッチした。

人間は「誰かのために」と思った時に、希望が生まれてくるし、その希望を持つことによって免疫力が高まり、生きる力が湧いてくるのではないかと思います。

『1日1話、読めば心が熱くなる365人の仕事の教科書』(致知出版社)より

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

### <コメント>

致知出版社の回し者ではありませんが(笑)、この本はとてもおすすめです。近所の書店では、ビジネス書ランキング第6位でしたが、「ビジネス実務・自己啓発ランキング」というサイトでは第2位でした。まあ、ランキングなどはどうでもいいのです。

このコラムです。グッときますね。

『精いっぱい必死に生きて、大切なことを大切な人にしっかりバトンタッチする』

これは私達に共通する人生の使命ですね。

この二人のお子さん達は、大切な命のバトンを必ずやその先に伝えるでしょうし、その生き方も母親譲りとなること間違いなしでしょう。

普段、仕事の成果を出そうと一生懸命になっていると、このような世界をつい忘れがちです。視野が自分の分野に偏ってしまうと、JOCの森前会長のみならず、本当に大切なことを見失いかねません。

時々命の洗濯が必要ですね。そして命の持つ

秘められた力にも心を向けたいと思いました。

< 壱岐大学無料オンラインセミナーのご案内 >

前号でもご案内させていただきましたが、弊社は、社員一同の人間力向上を目指し、昨年4月に4年制社内大学『壱岐大学』を開校しました。

社員教育の格付けを少しだけアップさせ、毎週1回1時間半程度を目安に取り組んでまいりました。

5名の外部講師にご協力を仰ぎましたが、主幹講師柴田聖一氏の講座を体験いただきたく、ZOOMによる公開講座を開催することとしました。

【日時】3月8日(月) 18時半～20時

【内容】リーダーシップとフォロワーシップ

【講師】柴田聖一氏(株式会社ステップアップコミュニケーションズ代表取締役)

【参加費】無料

【定員】50名(先着順)

【申込】弊社HP申込フォーム or Eメールで

現時点でお申し込みいただいているのが3名。まだまだ空きがございます(笑)。もちろん少人数でも手抜きはありませんので、どうぞお気軽にお申し込みくださいませ。

~~~~~

< 編集後記 >

この度の地震、いかがでしたか。被害に遭われた方には心よりお見舞い申し上げます。

弊社並びに社員・家族につきましては、おかげさまで大きな被害もなく胸をなでおろしております。東日本大震災以来、備えは続けておりますが、改めて確認し、心を引き締めていこうと思いました。

ハモコミ通信2021年3月号②

< まちネタその1 >

◎ 悲しみ過ぎず喜び過ぎず

「悲しみ、喜び、恐れ、怒り、不安」など、急激

で一時的に発生する感情を「情動」と呼びます。

人間は感情的な生き物です。理性よりも感情に動かされることのほうが多いといわれています。

それ故に、不必要な情動はマイナスに作用するのです。

たとえ、思うようにいかないことがあったとしても、悲しみや不安に心を乱さず、朗らかに処理をすることが肝心です。

うまくいったとしても自惚(うぬぼ)れず、有頂天になって気を緩めることなく対処しましょう。

喜び過ぎて箍(たが)が緩むと、大丈夫と思ったこともガラリと崩れることがあります。

逆に失敗しても、心を立て直して、目の前のことに専心していくと、後に良い結果になることもあります。

悲しみ過ぎず喜び過ぎず、一時(いつとき)の結果にとらわれずに、まずは、そのままを受けとめることが大切です。

泰然自若※(たいぜんじじゃく)の心で物事に臨み、明るい気持ちで前進していきましょう。

※ 泰然自若：落ち着いて物事に動じないさま。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

< コメント >

東日本大震災から丸10年。

この日をどう迎えるか、個人として会社として、いろいろ思いを巡らせたことでしょう。

当時どんな体験をされたか、その後どのように震災復興に関わってきたか、ということによってももちろん様々だと思います。

まずは犠牲になられた方に心より謹んで哀悼の意を表しますとともに、亡くなられた方々の分まで、しっかりと世の中のために貢献していこうと決意しました。

ともすると陥りがちな「傲慢な心・横柄尊大な心」、人としてあってはならないこのような心、平素の心にこそ注意していかねば、と思った矢先、巡りあったコラムでした。

感情を殺すというのともニュアンスが違います。

心に留めて、真の明るさ、朗らかさを常としたいと思いました。

< まちネタその2 >

◎ 互いの良さを認める

家庭や職場において、他者と意見が一致せず、対立してしまった経験は誰しもあるのではないのでしょうか。

どちらもが〈自分が正しく、相手が間違っている〉と考え、相手の主張を聞き入れない姿勢でいると、折り合いがつかなくなります。

G社の会議でAとBのどちらを商品化するかで意見が割れました。

担当は互いに自分が勧める品を推して譲りません。

会議は平行線を辿(たど)り、相手の商品の批判が始まったのでした。

そのような中、Aを推していた一人の社員が「改めて資料を見てみると、Bも良いですね」と言いました。

その一言で、空気が一変し、「AとB両方の良さを活かした商品開発を進めよう」と話がまとまりました。

それぞれに置かれた立場や状況が違う場合、主張は異なるものです。

だからこそ、相手の言葉に耳を傾ける姿勢は大切です。

こちらが耳を傾げるからこそ、相手もこちらの意見に耳を傾けてくれるのです。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

<コメント>

国会なども、このような建設的折衷案が生まれるような議論だと若者の手本になると思うのですが(笑)。

置かれた立場を超えた決断として、感動し今でも鮮烈な記憶として残っているのはゴルフバチョフ氏の決断でした。

真のリーダーは、第3の道をワンチームで進んでいき、みんながハッピーになる絵を描ける人だと思います。

他人事とせず、まずは足元から(笑)。

~~~~~

#### < 壱岐大学第1回公開講座のご報告 >

おかげさまで、去る3月8日、壱岐大学の第1回公開講座を無事開催することができました。

講師に当大学主任講師の柴田聖一氏(株式会社ステップアップコミュニケーションズ代表取

締役)をお迎えし、テーマ「リーダーシップとフォロワーシップ」に沿って、4つの「SHIP」についての講義ならびにグループワークを実施しました。

40名のお申込みをいただき、36名がご参加くださいました。

初のオンライン公開講座ということで、実施するだけで大きなチャレンジでした。

弊社社員にとって、今回のように多種多様な方々のグループワークの進行役は初体験であり、大きな成長の第一歩だったと確信しております。

一方、運営上の不手際も多々ありました。

この場をお借りしてお詫び申し上げます。

参加者の皆様が温かく見守ってくださり、アンケートにも温かい気持ちを寄せてくださいました。

心より感謝御礼申し上げます。(HPにも掲載)

#### < 編集後記 >

10年前、自衛隊の皆さんの献身的で頼もしい活躍は本当に感動溢れるものでした。

当時の天皇陛下(現上皇陛下)の心のこもったお言葉やお見舞いの被災地訪問もとても印象深かったです。

台湾をはじめ、諸外国の支援も有難かった。

10年の節目にいろいろ記憶が甦りました。

## ハモコミ通信2021年4月号②

#### < まちネタその1 >

### ◎ 努力の上の辛抱という棒を立てろ 桂小金治(タレント)

10歳の頃、僕にとって忘れられない出来事があります。

ある日、友達の家に行ったらハーモニカがあって、吹いてみたらすごく上手に演奏できたんです。

無理だと知りつつも、家に帰ってハーモニカを買ってくれと親父にせがんでみた。

すると親父は、「いい音ならこれで出せ」と神棚の榊(さかき)の葉を一枚取って、それで「ふるさと」を吹いたんです。

あまりの音色のよさに僕は思わず聞き惚れてし

まった。

もちろん、親父は吹き方など教えてはくれません。

「俺にできておまえにできないわけがない」

そう言われて学校の行き帰り、葉っぱをむっして一人で草笛を練習しました。

だけど、どんなに頑張ってみても一向に音は出ない。

諦めて数日でやめてしまいました。

これを知った親父がある日、「おまえ悔しくないのか。俺は吹けるがおまえは吹けない。おまえは俺に負けたんだぞ」と僕を一喝しました。

続けて、

「一念発起は誰でもする。実行、努力までならみんなする。そこでやめたらドングリの背比べで終わりなんだ。一歩抜きん出るには努力の上の辛抱という棒を立てるんだよ。この棒に花が咲くんだ」と。

その言葉に触発されて僕は来る日も来る日も練習を続けました。そうやって何とかメロディーが奏でられるようになったんです。

草笛が吹けるようになった日、さっそく親父の前で披露しました。

得意満面の僕を見て親父は言いました。

「偉そうな顔するなよ。何か一つのことができるようになった時、自分一人の手柄と思うな。世間の皆様のお力添えと感謝しなさい。錐(きり)だってそうじゃないか。片手で錐は揉めぬ」

努力することに加えて、人様への感謝の気持ちが生きていく上でどれだけ大切かということ、この時、親父に気づかせてもらったんです。

翌朝、目を覚ましたら枕元に新聞紙に包んだ細長いものがある。開けてみたらハーモニカでした。

喜び勇んで親父のところに駆けつけると、「努力の上の辛抱を立てたんだろう。花が咲くのは当たり前だよ」

子ども心にこんなに嬉しい言葉はありません。

あまりに嬉しいものだから、お袋にも話したんです。

するとお袋は、

「ハーモニカは3日も前に買ってあったんだよ。

お父ちゃんが言っていた。あの子はきっと草笛が吹けるようになるからってね」僕の目から大粒の涙が流れ落ちました。

いまでもこの時の心の震えるような感動は、色あせることなく心に鮮明に焼きついています。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

<コメント>

桂小金治さんは2014年に88歳でお亡くなりになりました。

味のある人間味あふれる雰囲気を持った方でした。

やっぱりこういう方は親がまたすばらしいですね。

10歳の息子を大人と同じように教育していたお父さん。

深い愛情と真の教育姿勢がこのエピソードから伝わってきます。

察するにハーモニカは家計の割に高価だったのでしょうが、『努力すれば報われるんだ』ということ息子に実感してほしいと願い、腹をくくったのでしょうか。

そして結果を信じ、先行してご褒美を買いつつも、結果を出して得意になった息子を諭す父。

謙虚な心でいること、感謝と世間の恩を忘れないこと、この2つが大切というご本人の強い信念の表れでしょう。

自分は子育て期、こういう領域に達してなかったなあ、とハッとさせられました。

同時に、最近ふと思ったことがあります。

それは、3人の子供達がそれぞれの地で社会人生活をしている今も、実はちょっと違った種類の子育て期なのではないか、ということです。

直接言葉を交わすとか、メールや手紙などでやりとりをして何かを伝えるという意味ではなく、背中で語る式の違った意味での子育て(?)です。

遠く離れているから、背中も見せることはできませんが、今を一所懸命生きていれば、波動か何かで伝わるのではないかな、と。

<まちネタその2>

◎ 働くとは、人にサービスをすること 水戸岡鋭治(工業デザイナー)

問題を一つずつ経済性と文化性に分けて、そのバランスを保つようにしていくと、皆がそこそこ好むものができ上がってくる。

それを現場の人とデザイナー、経営者が一緒になってやってきたことで、赤字だったJR九州がインパクトを持ち始め、いまや多くの固定ファン

がつくところまで来ています。

福沢諭吉も述べているように、哲学と歴史学と経済学の三つが上手くバランスを取れていないと、いいものがないよと。

いくら知識がたくさんあっても、それを使えなければ意味がない。

そういったことを実践する場として、仕事というものがあると思うんです。

私は理想を言い続けてきて、青くさいなどと随分言われてきたんですが、でも理想を言わずに他に言うことなんか何もない。

実際にそれを追求することが、最終的に一番いい結果を生む可能性が高いことを、25年間この仕事をやってきて感じますね。

私は、働くとは即(すなわ)ち人にサービスをすることだと思うんですね。

人のことを考えられるのは能力が高いということであり、幸福になれる基本ではないかと。

だから私の事務所では10名ほどスタッフがいますが、来客の予定があると「こういう人でこのくらいの年齢だ」とだけ話してお弁当を買に行かせます。

お客様のことを考え、いかによい弁当を買うことができるか。

それができない者によりデザインはできません。

お客様には1時間おきにお茶を出し、3時にはおやつを、夜には夜食を用意する。

だから会議があると大変で、社員はデパートへ買い出しに、お茶出しにと、1日中走り回っています。

会議とはどういうものであるかが若い人にはなかなか分からないようですが、いいお茶が出たり、いいお菓子が出るという会議ができる。

だから新人は皆それを1年なり2年なり1日中やるんです。

おいしいお茶がはいるとお客様も長居をされますから、豊かなコミュニケーションができて、よい信頼関係が生まれるんですね。

だから若い子によく言うんですが、絵を描いたりコンピュータを動かしたり、そんなことはいつでもできるよと。

新人の時にお茶出しをやったり、弁当を買に行ったりしたことが、後でどれほど役に立つか。

棚から食器を出して、どれをどう使うか考えているだけでもセンスを磨ける。

つまりデザインセンスはテーブルの上だけでほとんど磨けるんですね。最も難しく、かつ最も大

事なことが人にサービスをすることですから。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

<コメント>

水戸岡さんは現在JR九州のデザイン顧問もされている73歳現役デザイナーです。

ななつ星 in九州、ザ・ロイヤルエクスプレス、36ぷらす3など、数々の列車や駅舎などをデザインし、受賞歴も華々しい方です。

実際、JR九州はいつも注目の的ですよ。

その方が、お茶出し、おやつを選定などがとても大事だ！

と力説しているのですから、とても面白いです。

さて、コラムの内容はいちいち納得です。

「哲学と歴史学と経済学の三つが上手くバランスを取れていない」というくだりや、「何と言われようが理想を追求する」、「人のことを考えられるのは能力が高いということであり幸福になれる基本」、「最も難しくかつ最も大事なことが人にサービスをすること」など。

中学校のPTA会長を1年だけ務めた時、卒業式の祝辞で何を伝えようかと思い、「サービス精神が身を助ける」という趣旨の話をさせていただいた記憶があります。

自分自身、サービス精神でお客様や周りの人に接してきたことが身を助けてきたなあ、という実感があったからです。

センスというのは何もデザイナーだけに必要なことではありませんよね。

営業センスという言葉もありますし、人との関わり方から様々な表現に至るまであらゆる場面で問われます。

大きな視点でものごとをとらえつつ、目の前のことにセンス良く、サービス精神旺盛に取り組んでいきたいものですね。

~~~~~

< 編集後記 >

ゴルフの松山英樹選手、偉業を成し遂げましたね。

解説者の嗚咽(おえつ)も涙を誘いました。

<まちネタその1>

◎ 最大の危機は、低過ぎる目標を達成すること
鍵山秀三郎(日本を美しくする会相談役)

人生にも仕事にも問題はつきものです。会社も国も世界も、実にたくさんの問題が日々発生しております。

そこで勘違いしやすいのが、あんな問題が起こったから自分はこうなってしまった、というふうの問題のせいにする事です。

これは大きな見当違いで、問題が起きたことは問題ではないのです。それにどう対処するか、それによって皆さんの仕事も、人生も変わっていくのです。

問題によって人生がダメになるということはありません。すべて対処の仕方です。

もちろん、そこで失敗することもあるでしょうが、失敗することは問題ではありません。

私など失敗だらけです。しかし失敗からすべて学んできました。

ですから、失敗がすべて次の成功へのエネルギーになったのです。失敗を恐れて何もしないことのほうがよほどいけない。

ミケランジェロは、

「最大の危機は、目標が高過ぎて達成できないことではない。目標が低過ぎて、その低い目標を達成してしまうことだ」

と述べています。

まさにその通りでございまして、皆さん方にはぜひ、自分の手に余るくらい大きな目標を設定して挑戦していただきたく思います。

もちろん目標が大きければ大きいほど、大きな壁が立ち上がるものです。

時には、とても自分には乗り越えられないと思うこともあるかもしれませんが、乗り越える必要はないんです。

そういう時には、そこに穴を開けてくぐり抜けていけばいいのです。

イギリスの首相を務めたベンジャミン・ディズレーリは、「いかなる教育も、逆境から学べるものには敵わない」と言っています。

では、逆境に遭うことがすべてかといえば、そうではありません。

日頃から様々なことを通じて学んでいるからこそ、逆境から学べるのであって、何の備えもない人が逆境に遭うと、そこで潰れてしまいます。

やはり大事なことは、日々いろんな人や書物から学んで、それを自分の血肉にしていくことだと思います。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

<コメント>

カー用品のイエローハット創業者でもある鍵山秀三郎氏。氏の講演CDは何枚も聞きましたが、コラムのとおり、失敗の連続だったことを公言してはばからない方です。

正確な言い回しではありませんが、次のような言葉を印象深く覚えています。

1. 高い目標をクリアするには、自分の持っている知識と経験を総動員し、調べるものは調べ、懸命に努力すれば何とかクリアできる。

2. もっと高い目標をクリアするためには、他人の助けを借りて、互いの良いところをうまく噛み合わせ、心合わせて懸命に努力すれば何とかクリアできる。

3. 更に高い目標をクリアするには？ 1と2をやり切ったのち、それでもどうにもならぬ時は、人知を超えたものにすが（委ねる）。やり切った人には不思議のチカラが与えられる、と。

3のような経験はたくさんはありませんが、確かにそうだったなあ、と思いついたことはありました。

「問題が起きたことは問題ではない。それにどう対処するかで仕事も人生も変わっていく」まさに金言ですね。

そして「日々いろんな人や書物から学んで血肉化せよ」と。そうすることによって逆境が先生になる、と。

頭の回転や記憶力はとても若い人には勝てませんが、血肉化するような学びは、経験を重ねるごとに厚みが出てきますから、そう簡単には負けません（負けてられません）。

とはいえ、情報のアップデートを常としておかないと、考え方がパターン化してしまいかねませんね。

やはり若い人からも学んで、大きな壁にしっかり対峙していきたいものです。

<まちネタその2>

◎ **あなたの一だけをひたすら書きなさい**
ひろはまかずとし(言の葉墨彩画家)

実は私は、子どもの頃から字が下手でした。普段書く字はもちろん、書道も絵も、通知表の評価ではいつも1か2でした。

そういう人間がいま、言の葉墨彩(ことのはぼくさい)画家としてたくさんのファンの方々に恵まれ、一定の評価を得ています。

書家や画家の方から一度も非難を浴びたこともなく、むしろそういう人たちの中にも私のファンの方がいます。

この事実は、とても大きな教訓を含んでいると思うのです。

中学時代のある日のことでした。国語の先生がお休みで、代わりに教頭先生が授業を受け持ってくださいました。

教頭先生は「きょうは習字をやろう」とおっしゃり、字の嫌いな私が憂鬱な思いを抱いていると、教頭先生は半紙を一人20枚ずつ配り、「横棒の一だけを書きなさい。一に決まりはないから、何も考えずにあなたの一だけをひたすら書きなさい」とおっしゃったのです。

教頭先生は黙々と書き続けている生徒の周りを回り、各々の字を褒めては頭を撫でてくださいました。私はその時間中に30回くらい頭を撫でられました。

文字で褒められたことのない人間が、一という文字を書いただけで褒められた。私にとっては、目から鱗が落ちるような嬉しい体験でした。

教頭先生は授業の終わりにこうおっしゃいました。

「文字はすべて、この一の組み合わせなんだよ。だから、素晴らしい一を書ける人間に素晴らしい字が書けないわけがない。書けないのは、格好いい字を書こうとか、見本通りに書こうと思うからで、一本一本思いを込め、愛を込めて書くだけで、自分にしか書けない素晴らしい字が出来る。このことは、人間の生活すべてに当てはまることなんだよ」

その教頭先生の言葉がいまの私の創作活動、そして人生を支え続けてくれていると言っても過言ではありません。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

<コメント>

何ということでしょう！

素晴らしい教頭先生ですね！

思わず眼がしらが熱くなりました。

誰でもできることをやらせて、制限を設けず、一人ひとりの個性を認めて褒めて回る。

ご自身の体験がギュッと凝縮した信念のこもった言葉を投げかける。

そして『人間生活のすべてに当てはまる』と言いつ切る。

教頭先生の教育に対する姿勢が、まさに『思いを込める、愛を込める』ことそのものだったと感じ取れますね。

我々の仕事もこうありたいものですね。

~~~~~

< 編集後記 >

GWというのはずいぶん前のことに感じますが、いかがお過ごしだったでしょうか？

私は休暇中の万歩計平均が2万1千歩。

コロナに負けない体力づくり週間でした(笑)。

**ハモコミ通信2021年6月号②**

<まちネタその1>

◎ **「まね、慣れ、己」 小田禎彦(加賀谷会長)**

いまのところ日本でサービスというと「お一つサービスしますよ」というように「無料、タダ」として使われています。でも、加賀屋のサービスはそうじゃない。

加賀屋では、

「サービスとは、プロとして訓練された社員が給料をいただいて、お客様のために正確にお役に立って、お客様から感激と満足感を引き出すこと」と定義しています。

私はサービスの本質は、突き詰めれば二つだと考えています。

一つは正確であること。例えばモーニングコールの時間を頼まれていたのに、時間を間違えてしまったとします。それはサービスの正確さという

点においては、病院が酸素ボンベと炭酸ガスを間違えたり、肺がん患者と心臓病患者を間違えて手術室へ入れることと何ら変わりはありません。

サービスで一番大切なのは正確かどうかです。しかし、正確であればそれでいいのではなく、やはりホスピタリティー、お客様の立場に立って思いやる心がなければなりません。この二つが揃って初めていいサービスができるのです。

社員には、とにかく最初は丸暗記しろって言っているんです。

私はよく「まね、慣れ、己」と言うのですが、最初は会長に言われている、物まねさせられていると思って、自分の体験が伴って納得できると、言葉が生きてきて、最後には自分オリジナルの言葉になるのです。

私はこの加賀屋のサービスの定義は、社員だけでなく、出入りするコンパニオンやらパートタイマー、マッサージ師やショーに出るバンドの人たちにもしっかり理解してもらおうと思うって、機会を見つけてはお話させていただいています。

うちが給料を払っているわけじゃないが、お客様にしてみれば「加賀屋にいるスタッフ」には違いありませんからね。

ですから、「プロが選ぶ日本のホテル・旅館百選」二十四年間連続総合一位をはじめ、各方面から高い評価をいただいているのは、そういった訓練・教育を通し、社員たちが成長し続けている証ではないかと思っています。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

#### <コメント>

キーワードを徹底させるためには「定義づける」ことが重要だと感じさせてくれました。

サービスというと、ホスピタリティーの方をすぐイメージしますが、「正確かどうかが一番大事」とは！ 確かに！

正確さを欠くサービスは、もはやサービスとは言えませんものね。

加賀屋さんのサービスについてはいくつか事例を聞いたことがあります、当たり前のことを繰り返し繰り返し徹底していらっしゃるのですね。

「自分の体験が伴って納得できると、言葉が生きてきて、最後には自分オリジナルの言葉になる」は、「まね、慣れ、己」をわかりやすく言

い換えた言葉。

皆さんも経験していらっしゃることでないでしょうか。もしよろしければ、そんな体験を教えていただけませんか？

次号でご紹介できればと思っています。

#### <まちネタその2>

#### ◎

#### 「マザー・テレサへの質問」 上甲晃 志ネットワーク「青年塾」代表

マザー・テレサの言葉に常々深い感銘を受けていた私は、この人に会いたいという思いを募らせ、ついに後先考えずにインドのカルカッタ(現・コルカタ)へ渡りました。彼女に直接、どうしても聞いてみたいことがあったからです。

当時のカルカッタは人口一千万人のうち二百万人が路上生活者で、至るところに生死も分からない行き倒れの人が転がっていました。全身から膿を出している人、ウジ虫の湧いている人、とても側に寄せたものではありません。

しかしマザー・テレサと仲間のシスターたちは、一番死に近い人から順番に抱きかかえて、死を待つ人の家に連れていき、体を綺麗に洗ってあげ、温かいスープを与えて見送るのです。せめて最期の瞬間くらいは人間らしくと願ってのことでした。

運よく、カルカッタの礼拝堂でマザーに面会することのできた私は、「どうしてあなた方は、あの汚い、怖い乞食を抱きかかえられるのですか？」と尋ねました。マザーは即座に、「あの人たちは乞食ではありません」とおっしゃるので、私は驚いて「えっ、あの人たちが乞食でなくていったい何ですか？」と聞くと、

「イエス・キリストです」

とお答えになったのです。私の人生を変えるひと言でした。

マザーはさらにこうおっしゃいました。

「イエス・キリストは、この仕事をしているあなたが本物かどうか、そしてこの仕事をしているあなたが本気かどうかを確かめるために、あなたの一番受け入れがたい姿でああなたの前に現れるのです」

目から鱗が落ちる思いでした。マザーの言葉を伺った瞬間、私が松下政経塾で、あんな人は辞めてほしいと思っていた塾生が、実はイエス・キリストであったことに思い至ったのです。

自分はこれまで、他人を変えようとするあまり  
どれほど人を責めてきたことだろうか。しかし、  
いくらそれを続けたところで人を変えることはで  
きない。人生でただ一つ、自分の責任において変  
えられるのは自分しかない。常に問われているの  
は、自分から変わる勇気を持てるかどうかだ。こ  
のことに気づいた途端、心が晴れ晴れとしてきた  
のです。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

#### <コメント>

私はキリスト教徒ではありませんので、「イエ  
ス・キリスト」を「天」あるいは「天の意思」と  
読み換えると、実に合点がいきます。

おまえは本物か？おまえは本気か？そういう  
「天からの問い」を感じるものが時々あります。

このコラムを読んで、本当は、時々ではなく頻  
繁に「天」は問いを発してくれているのではな  
いか？それを意識できずスルーしてしまってい  
るのではないか？と思い至りました。

ムツとするような出来事、嫌な気持ちを与え  
る人、困難苦難の出来事、それを持ち込む人、そ  
れらすべてが「本物か？本気か？」の問いなの  
でしょう。

そういう有難い「天の意思」を敏感に感じ取る  
感性と、それに心を合わせ、自らを省みる強さ  
とすなおさがもっと必要だなあ、と思いました。

~~~~~

< 読者からの寄稿 >

前号で、「皆さんの取り入れているマンネリ打
破のスパイスをぜひ教えてくださいませ」とさ
りげなく書かせていただきました。

嬉しいことに、しっかり反応してくださった
方がお二人いらっしゃったので、ご紹介したい
と思います。

●Iさん：

私の一日は起床後、うがいと歯みがき、続け
て 06:30~のラジオ体操で身体のウォーミング
アップが始まります。

実は、一ヶ月ほど前から、利き手でない方の
手で歯磨きを始め、少しずつではありますが、
動きがスムーズになってきたような気がしてお
ります。

仙台弁で言う、「いずい」感覚ですが、リハビ
リというのはまさにこういう感覚なのかな？と
も感じております。

私にとっての「朝のスパイス」です。

●Jさん：

私のマンネリ打破は、それほどパッとしませ
んが、最近、朝の練習の前に、家の周りの草取り
と伸びた草木の剪定をやってます。

あまり放置しすぎてからやると、時間もかか
るし、腰も痛くなるし、大変ですが、毎朝 5~10
分しかやらないことにして、今日はこのエリア
だけ、とか明日はあそこを、と決めてササッと
済ませていけば、わざわざ、草取りの時間や外
回りの掃除に時間を割かなくてもよくなります。

そして、朝の澄んだ空気の中、草や土に少し
でも触れると気持ちがスッキリして、一日の仕
事を始める（私の場合は朝練）ウォーミングア
ップにもなると、気付きました。こんな地味~
な、マンネリ対策です。でも簡単で大袈裟でな
い分、続けております。

Iさん、Jさん、ありがとうございました。

~~~~~

#### < 編集後記 >

大衡村にある「昭和万葉の森」に初めて行って  
きました。

名前の由来は、ひとつは、昭和天皇の在位 60 周  
年を記念してつくったということ。もう 1つは、  
万葉集に詠まれている植物 160 種を中心に植栽さ  
れていること。

とても気持ちのいい森林公園でした。

#### ハモコミ通信2021年7月号②

#### <まちネタその1>

#### ◎ 鏡を見よ

自叙伝・『武士の娘』の著者である杉本鉞子(えつ  
こ)は、旧長岡藩の筆頭家老の娘として、幼い頃か  
ら厳しくしつけられました。

特に主婦になるための心構えは、嫁ぐ十年も前から、しっかりと時間をかけて教えられたといえます。

なかでも祖母の教えは鍼子の心に深く刻み込まれ、その後の人生を生き抜く強い覚悟を持たせるものとなりました。

武家のしきたりの一つとして、娘が嫁ぐ際に伝えられる決まり文句に、「毎日、この鏡をごらん下さい。もし心に我儘(わがまま)や勝気があれば、必ず顔に表れるものです」との言葉があります。

かつて鏡は大切な嫁入り道具の一つでした。

単に身だしなみを整えたり化粧をするためではなく、自分自身と向き合ってきたと役割を果たしているかを確認し、目をそらさず現実を受け止めるために常備されたのです。

そこには、強い心を育ててきた日本人の精神文化の特性が表われています。壁にぶつかった時、鏡を通して自分の心と向き合ってみては、いかがでしょう。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

#### <コメント>

ドキッとしませんか？

髪の毛が薄くなってきたなあ、とか、今日はなんだかはれぼったいなあ、とか、そういう話ではないのです(笑)。

『きちんと役割を果たしているかを確認し、目をそらさず現実を受け止める』ための鏡。

『心の鏡』という表現はよく使われますが、実際に毎朝このような心持ちで鏡に映った自分と対峙(たいじ)すると、顔つきにある種の『意思』が宿ってきそうです。

「日々勝負！」と思っている人は精悍(せいかん)な顔つきになるでしょうし、「今日も誰かの喜びのために！」と心している人は、朗らかで澄み切った張り切った顔つきになるでしょう。

壁にぶつかった時ももちろんそうでしょうが、どうもイマイチ心がスッキリしない時、ぐらついている自分を感じる時、強い気持ちで鏡に向かいたいですね。

表面的なとりつくろいではなく、内面からにじみ出てくるはげない自分づくりは、鏡の前で目を逸らさないこと、しばし間をとって、意識をそこに向けることと心しました。

<まちネタその2>

## ◎ 流星群

8月12日から13日の夜明けまで、ペルセウス座流星群が極大となります。日本では、晴れていれば月明かりもなく観測条件も良好となるようです。

流れ星が、あっという間に消えていく、その一瞬のうちに願いごとを三回唱えると、願いが叶うといった言い伝えがあります。

実業家で作家活動をする前田裕二氏は、「なぜ流れ星を見た瞬間に願いを唱えると夢が叶うのか?...流れ星を見た瞬間ですら、瞬間的に言葉が出てくるくらいの強烈な夢への想いを持っているから」と述べています。

誰しも「こうしたい、こうなりたい」という願いを持っているものです。しかし、それが叶う人もいれば、叶わない人もいます。様々な要因がありますが、自分自身の思いの強さが大切なのです。

思いは、言葉、表情、態度、さらには行動に現われます。その言動が周囲を巻き込み、願いが一層、具現化していくのです。

流れ星に願いを込められるほどの強い思いを持ちたいものです。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

#### <コメント>

この前田氏のコメントは実に言い得て妙！確かにその通りですね。

そんなの迷信だと片づける前に、「なぜそうなのか？それが正しいとしたらどういうことなのか？」という視点で考えてみると、いろいろな言い伝えも見方が変わってくるかもしれませんね。

皆さんは流れ星に願いを込められるほどの強い思いをお持ちでいらっしゃいますか？私は3つありますが、とっさにどれが出てくるか、8月12日の実験が楽しみです。

事前に準備しちゃっていると、コラムで言っていることとは少し違ってきそうですが(笑)。

~~~~~

< 編集後記 >

いよいよオリンピック開幕まであと1週間となりました。

大会関係者からすると、紆余曲折ようやくその日を迎えられる喜びと、まだまだどう変化するかわからない緊張感が、入り混じっておられることでしょう。

特に重責を担っていらっしゃる方の心労はいかばかりかとお察しします。

私は3日間、駅の誘導ボランティアをさせていただきます。たった3つの有観客開催県の1つとして、いらした方を心からお迎えしたいと思います。

ハモコミ通信2021年8月号②

<まちネタその1>

◎ 人が喜ぶこと

江戸時代後期の農政家で思想家の二宮尊徳は、門人である福住正兄（ふくずみまさえ）が経営する宿を訪ね、温泉につかった際に以下のように言いました。

「風呂のお湯を、手で自分の方へかき寄せれば、みんな向こうの方へ流れていく。逆に向こうの方へ押ししてみると、こっちに流れてくる。これが世の道理である」。

この話は、『たらいの水』の例話の基となりました。

これは、人のためにと頑張って働くことが、結果的に自分に金銭や幸せとなって返ってくることを教えています。

私利私欲に走るのではなく、献身的に働けば、いずれ自らに還元されることを示しています。

たとえば、書類の作成の際、どのようにしたら見やすくなるかなど、相手側に立って考えれば、日常の業務も今より建設的なものとなります。

お客様が喜んでくれる仕事をする中で、自分の働きにも磨きがかかり、やりがいも出てくるでしょう。

人の喜びが自分の喜びとなるように、働いていきたいものです。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

<コメント>

福住正兄氏がまとめた「二宮翁夜話」には、この『たらいの水の例話』の他にも数々の例え話が収められています。

「どうやったら伝わるか？」ということを真摯に追求して考えた様子が感じられます。

人間の「欲」については、水車の例えを使っています。

「欲が深すぎるのは、川の水に水車を深々と沈めているようなもので、これでは回らないどころか流されてしまう。

仙人のように欲がまったくないのは、水車を川の水につけないようなもので、これでは回るはずもない。

程よくつけることで水車が一番よく回る（得られるものが一番多い）、つまり中庸がよいのだと。

戦前の尋常小学校には、薪（たきぎ）を背負って歩きながら本を読む二宮金次郎（のちの尊徳）像があり、文部省唱歌「二宮金次郎」を歌い、手本とさせたようです。

禁欲主義のイメージが先行しているかもしれませんが、実際の尊徳先生は、程よい欲は大いに肯定し、慎みを持ちつつ励んで稼ごう、という方向性だったのです。

おっと、尊徳先生の話にばかりなっていました。

人の喜びが自分の喜び、この喜びをなるべく若いうちに体得感得できると、後の人生が豊かになっていきますね。

<まちネタその2>

◎ 「失敗」ではなく「不都合」と考える 株式会社モンベル創業者辰野勇「自然に生きる」 より一部抜粋

朝起きると、いちばん楽しいことを考えます。

忘れる能力が高い私は、ネガティブな気持ちを翌日まで引きずることはあまりありません。

あるとき、友人から、「辰野は『失敗』という概念を持ってないのと違うか」と指摘されました。

たしかに、「そうかも」と自覚しています。

登山でもカヌーでもビジネスでも、思い通りにいかないこと、狙い通りの結果にならないことは、山ほどあります。

でも、私にとってそれは、「不都合」なのです。

「失敗」と捉えると、その時点で完結してしま

います。

ですが、「不都合」だと解釈すれば、前に進むことができます。

不都合を是正・修正・修復すればいいからです。

<中略>

何かを思いついたら、頭で考えるより先に体が動いている。

たとえば、崖の上にユリの花を見つけたとします。「あのユリが欲しい」と思った瞬間に、すでに足が一步前に出ています。

思慮深い人は「ユリが欲しい」と思っても、「でも、あの崖に行く途中には川がある」「あの岩場は登れない」と推測して、「手にしたい」という気持ちに蓋(ふた)をする。

私は、川に阻(はば)まれたら、「丸太」を探します。

丸太がなければ、遠回りして浅瀬を探せばいい。

丸太が見つからなくても、それは「失敗」ではありません。「丸太がない」という不都合が生じただけ。

だとすれば、その不都合を解消する別の方法を考えればいいことです。

一見違う方向に進む私を見て、他人は、「あきらめた」と思うかもしれない。

ですが私の中では、そのユリに向かって歩を進めることを考え続けているのです。

遠回りすることになっても、その目的への道を探ることが人生の醍醐味です。

さらに言えば、結果的に目指すものが手に入らなくても、「そこへ向かって歩き続けたプロセス」にこそ価値があり、人生そのものだと思います。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

<コメント>

モンベルのアウトドア用品は、今や登山用品に限らず、幅広く親しまれていますね。

20年以上前に、辰野氏の講演CDを聞いた時、ものすごいエネルギーを感じたのを覚えています。

「自然に生きる」というこの著書の中に、『必要なものは何一つ忘れてはならない、しかし、不要なものは何一つ持って行ってはならない』というお話があります。

機能美を追求するモンベルらしい(辰野氏らしい)考え方ですが、無駄を省く過程で見つかるものは確かにありそうですね。

辰野氏はこのような一直線志向と同時に、フラフラブラブラ志向も併せ持った魅力的な方だと思います。

一見違う方向に進んでいるように見えて、実はユリを目指している、っていうのはカッコイイ表現ですね。

~~~~~

< 編集後記 >

東京オリンピック 2020 が無事(?)終了しました。

恐らく当事者の中ではいろいろあったことでしょう。

まずは関係者の皆様方に心からの敬意と感謝を表したいと思います。

そして今、パラリンピックの準備をされている方はより一層、緊張した張り詰めた思いで細心の注意を払った準備を整えていらっしゃることでしょう。

パラスポーツへの関心は、これまで以上に高まっているように感じますし、マイノリティを考える機会も増えてきました。

ぜひコロナ禍を突っ切って欲しいと思います。

## ハモコミ通信2021年9月号②

<まちネタその1>

### ◎ 体をほぐす

自社のPRのために、ホームページに動画を掲載することになったI社。中堅社員のFさんはその動画で、会社の紹介役として登場することになりました。

動画の撮影中Fさんは、笑顔や背筋を伸ばすことを意識していましたが、画面に映し出されたのは猫背で、俯(うつむ)き加減の自分の姿でした。

その姿にショックを受けたFさんは、その日から朝晩、ストレッチで体をほぐし、姿見に向かって姿勢のチェックを始めました。

また、デスクワーク中も腰骨を立て、背筋を伸ばすことを心がけました。

2カ月後、再び撮影の機会がありました。

すると、カメラマンから「前回よりも姿勢が良くなり、笑顔が出ていますね」と褒められ、会社では同僚から、「Fさん、最近明るくなったね」と言われたのです。

Fさんは、体をほぐしたことで心もほぐれ、気持ちも前向きになったのです。

軽い運動やストレッチで筋肉をほぐすと、心身共にリフレッシュの効果があります。

スポーツの秋、できる範囲で体を動かす習慣を始めましょう。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

#### <コメント>

2 か月間真剣に取り組むと、こうも違った結果が得られるのですね。素晴らしい！

客観視することがいかに大事か。

そして気づいたらすぐ行動に移すという習慣があるかないか、も大きなポイントではないでしょうか。

言うは易く行うは難し、続けるのは更に難しい…。

もう一つ、捉え方をポジティブに切替えることも重要ですね。

ショックのままで終わってしまう、あるいはショックを引きずってマイナス思考に陥ってしまうことのないよう、注意したいものです。

軽い運動をすることで、心身がリフレッシュして、すべてが良い方向に動いていくような気がするの皆さんご経験済みのことでしょう。

秋こそまさにそのチャンス。

制約がある方もいらっしゃるでしょうが、それぞれの可能な範囲で体を動かしていきましょうね。

#### <まちネタその2>

### ◎ 読書の秋に

Kさんの趣味は読書です。

《 仕事のスキルアップにつながる本をたくさん読んで仕事に活かしたい 》と考え、質よりも量を重視していました。

確かに、ノウハウ本をたくさん読むことで知識をたくさん得て、日々の業務に役立っていました。

しかし、50歳を迎えた頃から《 自分の本の読み方はこれでいいのだろうか 》と思い始めたので

す。

ある日、知人から「Kさんの人生の座右の書は何ですか」と聞かれた時に、答えることができませんでした。

よく考えてみると、Kさんは技術面の成長にばかり目を向け、自分の心が成長するような読書はほとんどしていなかったのです。

そして、《 たとえ一冊でもいいから、深く味わい、深く理解し、その書物の内容を自分のものにする読書がしたい 》と気づいたのです。

人生は短く、時間とエネルギーには限りがあることを実感しつつあるKさん。

知識や情報を得るための書物と共に、これからの人生の糧となるような良書を探し求めています。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

#### <コメント>

専門に関係のある本以外で本を読む時間は、確かにそうそう取れるものではないなあ、と実感しています。

コロナの影響もあり、いわゆる芸術鑑賞などもしばらくご無沙汰です。

しかし、「自然は真理の百科事典」と言われているように、自然の芸術鑑賞はコロナに関係なく存分にできますし、忙しくて人生の糧となるような良書を読む時間がない時でも、自然の中から、何かをつかみ取ろうとすることはできます。

私の最近の趣味は舗道の雑草取り(笑)。これがとても奥深いのです。

タンポポは根の周りに砂を呼び寄せるとか、ある雑草(名前は不明)は、いつも蟻を呼び寄せてる。

理由はわかりませんが、お互いにWIN-WINの関係を築いているのだろう、と想像できます。

そして舗道の雑草は舗道の下にある土とコラボしています。

土の立場からすると、雑草を応援することによって、少しずつ縁石とアスファルトの隙間を大きくし、やがて、アスファルトを植物の力で壊してもらうことによって、太陽とつながりたいと思っているのではないかと？

まったく個人的妄想レベルですが、そんな妄想を楽しめるのも雑草取りの魅力です。

おっと、コラムと関係ない方向に話がそれました(笑)。

最近と言ってもずいぶん前ですが、いわゆる良書と呼ばれるようなものを読んだとすれば、「菊と刀」でしょうか。もう1年近く前です(苦笑)。

友人から依頼を受け、書評も書きました。興味のある方はコチラをご覧くださいませ。

<https://lbook.biz/2020/12/19/RuthBenedict.html>

皆さんのおススメの良書は何ですか?ぜひ教えてくださいね。

読書の秋、スポーツの秋、食欲の秋、大いに楽しみましょう!

~~~~~

< 編集後記 >

おかげさまで、第2回壱岐大学公開講座を29名の参加をいただいて無事終了しました。

ご参加いただきました皆様、誠にありがとうございました。この場をお借りして御礼申し上げます。

来年3月に第3回目を開催予定です。その時も無料オンラインで行いますので、よろしければどんなものか覗きにいらしてくださいませ。

ハモコミ通信2021年10号②

< まちネタその1 >

◎ 母からの手紙タイムカプセル

僕は幼い頃から大きな愛の中で育ててもらい、亡き母の僕への想いを知り、母が望んでいる生き方をしようと心に決めました。

僕は4年前に母をガンで亡くしました。

ガンという病気がどういうものか、死とは何なのかも知らない小学校6年生の冬でした。

母が死んだという実感がなく、次の日の朝もいつも通り母が起こしてくれる。そんな事を思っていた幼い頃でした。

母が亡くなってから4年の歳月がたち、僕は最近ようやく母の写真や思い出を懐かしく話すことができるようになってきました。

僕と母はまるで友達のような親子で、母の好き

な映画を一緒に見に行ったり2人でドライブをしたりしました。

母は入院中、僕の小学校最後の運動会をどうしても見たいと医者に無理を言って一時退院させてもらい、10月の暑い運動会の日、自分の体調もかえりみず僕のお弁当を作り応援に来てくれました。

それから2ヶ月後、母はこの世を去りました。

料理好きの優しい母でした。

そんな母を亡くしてから家族や友達など、大勢の人達に支えられてここまで成長してきた僕ですが母がいないという事実は日を追うごとに辛くなり横道にそれそうになることもありました。

そんな時も僕を支えてくれたのは、僕のことを本当に心配してくれる友達や家族や学校の先生でした。

そして母が亡くなって5回目の正月を迎えた今年、信じられないことが起きました。

母から手紙が届いたのです。

正月早々、こんな冗談はないだろう、僕は不思議に思いました。

しかし、それはまぎれもない母の字だったので。

この手紙を書いている母の姿が頭に浮かび、母からの大きな期待と愛情に感動し、思いが言葉になりました。

この手紙には僕の生後10ヶ月の時の手形が押されていました。

僕は何度も読み返しました。

実はこの手紙は、1985年つくば国際科学技術博覧会を記念してポストカプセルの手紙が16年後の2001年に届くというイベントでした。

この時母は10ヶ月の僕を抱きながら16歳の僕に手紙を書いていたのです。

母からの手紙

昭和60年8月

熱い盛りも峠を越え、この頃では朝夕涼風がたち、夏も終わりを告げているようです。

T君、あせもに悩まされた10ヶ月の夏も終わります。

この頃では、はいはいでどこでも自由に行けるので楽しそうです。あと少しすればよちよち歩き回るのでしょう。

このハガキがT君の手元に着く頃には、この私の両手に包み込めない程大きな手になっているでしょう。

だから、せいっぱい、今はこの両手にあなた

を抱きしめ、巣立つ日まで見守りたいと思います。
大きくはばたけ T君 夢を追って!!
16才のあなたへ



この手紙の感想を母に伝えることは、もう出来ません。だから僕もここで母に手紙を送りたいと思います。

母さん手紙ありがとう。

この手紙で僕は幼い時から本当に大きな愛をたくさん受けて育ってきたことがわかったよ。

出来ることなら大きくなったこの僕の手で今度は僕があなたを大切に大切に包んであげたいです。

だって母さんは僕のたった1人の母で、僕は母さんのたった1人の息子だから、大きな愛をありがとう。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

<コメント>

これは、先日ある講師が紹介してくれたコラムです。

聴いていたみんながグッとくるものを抑えようとしている空気感が伝わってきました。

母親の温かいまなざしほど、人を癒し、励ましてくれるものはないでしょう。

多くの人が日常に追われ、そんなことを思い出す余裕がないのが現状かもしれません。あるいはあえて遠ざけている人もいることでしょう。

反抗期のあたりからボタンの掛け違いが起こり、両親とギクシャクした関係が続いている人も少なくないと思います。

しかし、言葉には表現できなくても、本当は誰もがこのような温かい気持ちの交換をしたいと願っているのではないのでしょうか。

普段接している職場の同僚や友人、知人も、何事もないようにふるまっても、それぞれいろいろなものを背負っているはず。

彩り豊かな秋、接する人に優しいまなざしを向けてその反射でこちらにも温かいまなざしが還ってくる。そんなことを意識して過ごしてみませんか？

~~~~~

#### < 編集後記 >

4月に里山0.8haを借りて半年。

はじめは5mもある笹藪が全体を覆い尽くし、かき分けても中を歩くのが困難なほど鬱蒼としていました。

それが…

週一のペースで手入れを続けてきたおかげで、イメージしていたとおりの里山の姿に近づいてきました。

森の中を風が通るようになり、実に爽やか〜(笑)。

嬉しい！ 実に嬉しい！

嬉しい上に世の中の的にも良い！

荒れた里山がキレイに蘇ることで、生態系も人のつながりも良い方向に動き出します。(詳細省略)

こんな気分をぜひ多くの人に体験してほしいと、心から願っています。(壱岐産業里山林林プロジェクト準備中)

## ハモコミ通信2021年11号②

<まちネタその1>

### ◎ 死中活あり(月刊「致知」藤尾社長のコラムより抜粋)

東洋学の泰斗(たいと)・安岡正篤師に「六中観」なる言葉がある。

人物を修練するための方途(ほうと)を説いた言葉である。

忙中閑(かん)あり

——どんなに忙しい中でも閑(ひま)はつくれるし、またそういう余裕を持たなければならない。

苦中楽あり

——どんな苦しみの中にも楽は見つけられる。

死中活あり

——もう駄目だという状況の中にも必ず活路はある。

壺(こ)中天あり

——どんな境涯の中でも自分独自の別天地を持つ。

意中人あり

——尊敬する人、相許す人を持つ。

腹中書あり

——頭の知識ではなく人間の土台をつくる書物を腹に持つ。

「六中観」は安岡師の自作と思われるが、師自身「私は平生窃(ひそ)かに此の観をなして、如何なる場合も決して絶望したり、仕事に負けたり屈託したり、精神的空虚に陥らないように心がけている」(『安岡正篤一日一言』)と語っている。

私たちが安岡師のこの姿勢に学びたいものである。

(中略)

「死中活あり」で思い出す話がある。

坂村真民さんから伺ったある校長先生の話である。

瀬戸内海で船が沈む事故が起こり、多くの人が水死した。

瀬戸内海は渦が多く巻いている。多くの方は渦に巻き込まれまいと必死にもがいて溺れてしまったようである。

その校長先生も海に投げ出され、渦に巻き込まれたが、何の抵抗もせず生きようという考えも捨ててしまって、逆巻く渦に身を任せた。

ずうっと底まで引き込まれていく。

と、逆に渦にあおられて浮き上がっていく。

浮いたり沈んだりを7、8回繰り返したろうか。

そこに救助船が来て助けられた。

渦に逆らって生きようともがいた人たちは亡くなり、捨て身で渦に任せた校長先生は助かった……。

示唆に富む話である。本気の極みは捨て身というが、自己の保身を忘れて捨て身になった時、そこに活路がひらかれるということだろう。

松下幸之助も死中に活をひらいた人である。

幸之助の最大の危機は敗戦後の昭和21年、GHQが行った経済改革、財閥解体の時である。

GHQより財閥に指定され、公職追放の制限を受けたのだ。

敗戦当時、幸之助は50歳、会社は創業27年。

その会社が江戸、明治から続く住友、三井、三菱、安田と並んで財閥指定を受けたのである。

財閥指定を受けると全財産が凍結される。

公職追放になると働くことができなくなる。

この財閥指定と公職追放は、番頭格だった高橋荒太郎の百回に及ぶ必死の交渉と、労働組合の嘆願書によって、それぞれ昭和25年末と22年5月に解除されたが、その間の幸之助の心情は察するに余りある。

長年幸之助に仕えた木野親之氏はこう言っている。

「小学校中退で丁稚奉公(でっちぼうこう)に出て、23歳で独立、50歳で敗戦を迎え、そして思いもよらなかった財閥指定で追放だといわれたのですから、絶対納得できるものではありません。

素直になろうにも、素直になれない。

けれども、素直にならなければ自分は生きていけない」(『松下幸之助叱られ問答』)

この葛藤の中で松下幸之助は「素直になるしかない」と思い定め、新たな一歩を踏み出したのだろう。

幸之助の「素直の一段になる」修練は、ここから始まったのではないかと思われる。

幸之助のこんな言葉がある。

「現実を否定してもいけない。是認(是認)してもいけない。容認しなければならぬ」

現実を否定しても是認しても、現実は変わらない。

容認する。

即ち現実をありのままに抱きかかえて、そこから一歩を踏み出すことが大事だ、ということだろう。

死中に活をひらくために忘れてはならない心得である。

最後に、松下幸之助がその体験からつかみ取った、人生の急所を衝いた言葉を二つ紹介したい。

「悲運と思われる時でも、決して悲観し失望してはいけない。その日その日を必死に生き抜くことが大事。そのうちきっと、思いもしない道がひらけてくる」

「九十であろうが百であろうが、生きている間はやるべきことをやる。人間は行き詰まるということは絶対にない。行き詰まるということは、自分で行き詰まったと思うだけのことである」

忙中の閑、一人静かに噛み締め、自らの糧としたい。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

<コメント>

むずかしい言葉は適当に読み飛ばしていくとして(笑)、『状況いかんを問わず、気概を持って本当に大切なことを大切にすること』といったメッセージなのかな?と受け取りました。

ここに登場するお二人ほどの経験をしておらず、「死中に活をひらく」について語る資格はあ

りませんが、先行きの不安で押しつぶされそうな日々はありました。

そこを抜けられたのは両親から譲り受けた天性の明るさというか、能天気さ、でしょうか(笑)。

まあ、何とかなる、命までは取られない、体にまとわりついている不安という重い荷物を、エイッと捨てて、またまとわりついてきたら、エイっ。

そんな割り切りだったと記憶しています。

ないものに焦点を当てず、あるものに感謝することで、その割り切りを確かなものにできました。

吸いたければ空気を吸える、空は青い、暖かい太陽の光、ある、ある、なんでもある！有難い！与えられている！

90歳でも100歳でもやるべきことをやる、行き詰ることはないのだ！っていう言葉はさすが松下幸之助さんの気概そのものですね。

レベルは違えど、その気概、感謝の気持ちと共に持ち続けていきたいです。

~~~~~

< 編集後記 >

深まりゆく秋もいいものですね。

落ち葉ふかふかの山道を歩くと、シャリシャリと気持ちいい音がします。

木々は冬の準備を着々と淀みなく進め、巡る季節の中でいつもやるべきことをやり、それを楽しんでいるかのようです。

穏やかな小春日和が続いています。休日は里山散策などいかがでしょうか？

ハモコミ通信2021年12号②

< まちネタその1 >

◎ 相手の立場に立つ

ある時、外回り営業をしているYさんは、同僚と車で踏切待ちをしていました。

その踏切は、朝夕のラッシュ時には次から次へと電車が通過し、遮断機が降りた状態が長時間続く「開かずの踏切」になるため、決まって渋滞とな

るのです。

まったく進まない状態に、Yさんが思わず「電車の数を今より少し減らせば、この渋滞も解消されるのに」と愚痴をこぼしました。

すると、同僚からは「でも、電車の数を今より減らしてしまうと、電車内はさらに混雑して、乗客は大変だよ」と言葉が返ってきたのです。

それを聞いて返す言葉がなくなったYさん。踏切の前では「電車を減らしてほしい」と願い、ホームに立てば「電車を増やしてほしい」と願っている自分の浅はかさに気がついたのです。

立場が変われば、物事の見え方は変わります。何か思い通りにならない時こそ、自分本位の見方を控え、相手の立場に立って物事を考えたいものです。

その正反対の背景に思いを巡らせるなど、視野の広い見方をしたいものです。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

< コメント >

人間とはいかにわがままか。Yさんだけの話ではありませんね。その姿はそっくり私の姿(苦笑)。

同時に、こういった社会問題を解決することがビジネスそのものなわけで、不都合を感じたら、「どうやったら解決できるだろう？」と頭の訓練をしていくと面白いでしょう。

例えば開かずの踏切の待ち時間が15分だとしましょう。その15分を縮められなくても、長いと感じさせない工夫はいろいろありそうです。

個人的な解決法としては、15分を有効活用する方策を事前に用意しておき、ワクワクウキウキしてその時間を過ごすこともできそうです。おっと、主題から逸れました。

相手には相手の立場があり、こちらには不都合だけど、相手にしてみればそうなるのは仕方ないなあ、と思い巡らすことは本当に有効ですね。

例えば道端に落ちているゴミ。「誰だ、こんなところに捨てたやつは」と怒り、捨てた人を責める心がメラメラすることもあるでしょう。

でも…。もしかしたら、その人は人生に絶望し、そんなことすら考える気力がないまま、ポイとしたのかもしれない。

そういった悲しいゴミが溢れない世の中にしていくために私たちができることはたくさんあ

りそうです。

<まちネタその2>

◎ ほど良い緊張感

「緊張」とは「はりつめてゆるみのない状態」をいいます。

仕事では緊張する場面がたくさんあります。

アメリカ心理学会の会長を務めたこともあるロバート・ヤーキーズ博士らは、1908年に「緊張しないより、適度に緊張状態にあるほうが高いパフォーマンスを発揮できる」という「ヤーキーズ・ドットソンの法則」を発表しました。

では、仕事のパフォーマンスを高める適度な緊張感を保つには何が必要でしょうか。方法の一つに、具体的な締め切りを決めることがあります。

「午前中にはA、午後にはBとCをする」など自分なりの目標を持つことで、ダラダラと仕事をするのを防ぎ、ほど良い緊張感が生まれます。

また、「大舞台の前に緊張する」など、一時的なものもあるでしょう。そうした場合は、十分に準備や予習をすることで、過度な緊張状態を避けられます。

良い緊張感を持って仕事に向かい、緊張がストレスにならないよう対処したいものです。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

<コメント>

ついに師走も後半戦に突入。

やることをやってはいるけれど、まだまだ先が見えない。進んでいるようで大して進んでおらず、しかし進んでないようで進んでいます。

やってもやらなくても時は過ぎていきます。だったらやるだけ(笑)。

師走は否応なしに程よい緊張感が生まれますが、それは年末という締切があるからなのですね。

1年をしっかりとふり返って後始末をきっちりして、来たる2022年を輝かせる計画を立てましょう。

大舞台の緊張、という点では、今年はなんといってもオリンピック選手がまさにそれだったわけです。

本番に強い選手、弱い選手の違いという研究もずいぶんなされ、最近はしっかり本番で結果を残す人が増えている感じがします。

また、記録に残らなくても記憶に残る選手もいますね。

古い話ではありますが、札幌五輪フィギュアのジャネット・リン選手の美しい笑顔は今でも鮮明に覚えています。

~~~~~

< 編集後記 >

今年もハモコミ通信並びに壱岐産業をご愛顧くださりまして誠に有難うございました。

皆様からの励ましのメッセージがハモコミ通信を17年間続けてこれている大きな原動力です。

本当にありがとうございます。

来年も素敵な街ネタと出合えることを期待して、今年最後のご挨拶とさせていただきます。

少し早いですが、どうぞ良いお年をお迎えてください。